

経営比較分析表（令和5年度決算）

京都府京丹波町 国保京丹波町病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財産	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	-	救へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
12,742	4,436	第2種該当	-	13：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
47	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	47
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
37	-	37

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の院域・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

国保京丹波町病院は、昭和30年5月の開設以来、常設開業医のないこの地域においてかかりつけ医的な役割を担っており、病床機能を有し、救急対応や公衆衛生活動を提供し、地域医療を守り続けている。また、在宅医療も推進し、医療・介護・保健・福祉を統合的かつ一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の拠点病院の役割を担い、地域住民のくらしを守っている。

（本分析には国保京丹波町病院と町直営の3診療所が含まれるが、病院が唯一、病床を運営し、会計規模においても8割以上を占めるため、全体として、主に国保京丹波町病院の分析となっている。）

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

患者数について、入院患者は病床利用率が平成30年度の大幅な落ち込みから令和民年へ急回復し以降、コロナ禍中も一定の水準を維持してきたが、今年度は5.4%と対前年度比で1.4%の減となり類似病院平均値も下回った。一方、外来患者は患者数が対前年度比4.1%の大幅増となったが、これは5月8日は第7「アプルーコロナ」に非対応したものの、直前の7月以降は新型コロナウイルス感染症の増加し年度まで続いた。その発熱外来の患者数が積み上がったものである。

収益面では、入院事業は前年度に続き内科常勤医師2名と内科専攻医1名の体制が患者確保、病床利用率の向上に寄ったことにより、20.9%の増と地域一に比べて着目した地域医療77病院の増減増により、患者一人一日当たりの入院収益は対前年度比で増増（1.1%）の28,050円を達成できた一方で、病床利用率が下がったことにより1.1%の減となった。外来事業は患者数こそ大幅増となったが、患者一人一日当たりの外来収益は対前年度比で4.5%減の7,100円に留まったことにより2.1%の減収となった。

費用については主に機械減価償却の増により1.7%の増となった。燃料として人件費のウェイトが大きく、前年度の9.0.9%から9.4.0%と大幅に増し改善には至らなかった。このように、好意の材料があったものの、結果として経常収支比率は3年連続の黒字となり、累積欠損金は49.2%に改善した。

今後も常勤医師を確保し、地域医療を総合的に提供する公立医療機関として、信頼獲得を患者数の増に繋げると共に、職員給与費等経営の削減に注力しないといけない。

2. 老朽化の状況について

取得価格の全体に占める割合の大きい国保京丹波町病院の建物は平成16年に新築した鉄筋コンクリート造のため、耐用年数が長く有形固定資産減価償却率は低い水準である。一方、医療機器が多くを占める機械備品減価償却率は毎年上昇しているのは、高額な機器を修繕しながら少しでも使用期間を延ばして経費の節減に努めているためである。結果、1床当たり有形固定資産の額は比較的緩やかに推移する。

個別にみると、有形固定資産減価償却率が前年と同じ47.2%になったことと、1床当たり有形固定資産が対前年度比で3.7%と増加した要因は、共に建物整備で医師住宅2棟を建築したことが要因である。

一方、機械備品減価償却率が対前年度比で4.8%減の70.1%となったのは、高価な医療機器である全身X線CT診断装置をはじめとした機器更新を行ったことによる影響が大きい。

全体総括

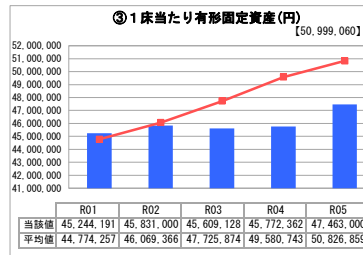
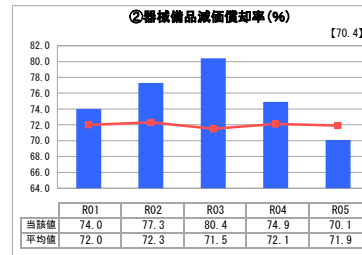
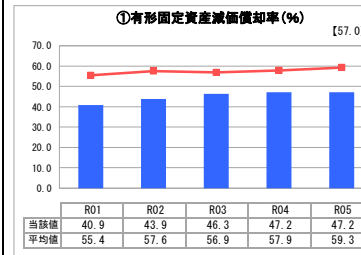
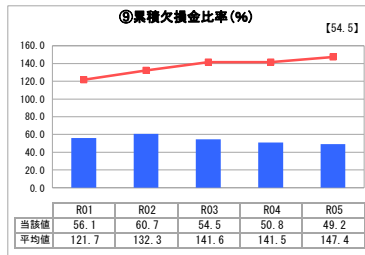
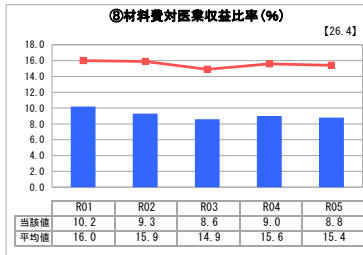
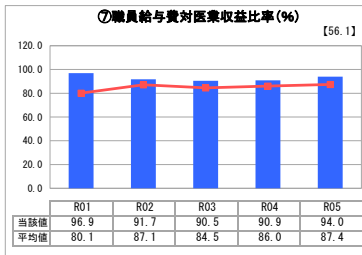
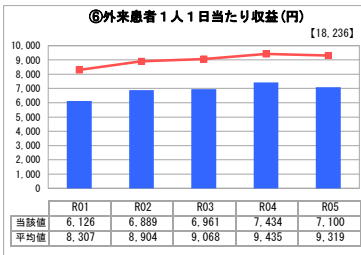
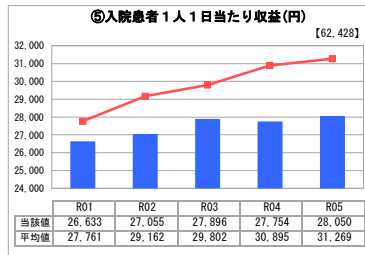
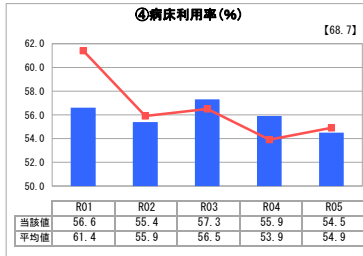
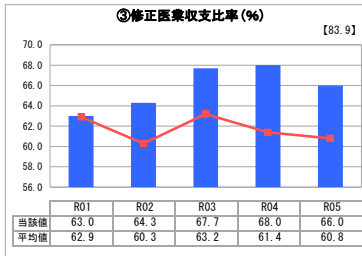
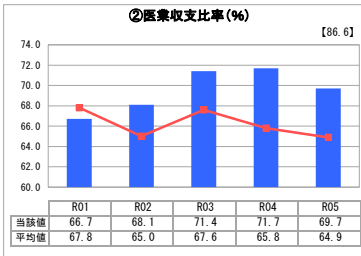
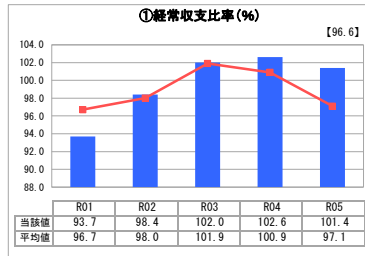
コロナ禍の3年半を挟んで5年連続で入院収益を維持出来たことは大きな成果である。その要因は、医師確保の努力、つまり国保京丹波町病院に内科常勤医師2名と内科専攻医1名の体制を堅持出来たことにより病病、病診、介護系施設との連携が円滑に進んだ結果、病床稼働率を前水準に維持出来たためである。また、地域包括ケア病床の高い稼働により入院単価も6年間上昇傾向を維持している。

入院事業には施設基準に沿った人的医療資源を多く投入していることから、病床稼働率や入院収益が経営に直結する一帯により病病、病診、介護系施設との連携が円滑に進んだ結果、病床稼働率を前水準に維持出来たためである。また、地域包括ケア病床の高い稼働により入院単価も6年間上昇傾向を維持している。

国保京丹波町病院と町直営の3診療所は、共に町民のかかりつけ医療機関として信頼されるよう、医療や接遇等引き続き研鑽に努めたい。

今後とも医師確保に努力し、経費削減に努めることで、新公立病院改革プランに沿った健全経営に取り組んでいく。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。